

○安達澄君 無所属の安達澄です。

この財政金融委員会では初めての質問となります。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、任期六年の前半の三年間は経済産業委員会に所属していましたが、そこで何回か経済産業省が所管する官民ファンド、クールジャパン機構について質問をしました。

経産省は、国からのお金を受け取る、使う立場だったわけですが、今回はそのお金を出す側の、出す側の立場である財務省にその官民ファンドについてお聞きします。

先日の鈴木大臣の所信表明の中でも、歳出の中身を精査とか質の高い予算を作るといった御発言もありました。そこを踏まえての質問でもあります。よろしくお願いいたします。

まずは、官民ファンドとは何か、簡潔に教えていただけますか。

○政府参考人（齋藤通雄君） お答えを申し上げます。

官民ファンドというものにつきましては、明確な法令上の定義があるもので

はございませんけれども、一般には、官民ファンドという名称が告示しておりますように、官、すなわち政府と、民、民間の双方から拠出された資金を原資として政策目的を実現するための投資活動を行うファンドを指すというふうに承知をいたしております。

官民ファンドの意義、役割といたしましては、政府の成長戦略の実現や地域活性化への貢献、また、新たな産業、市場の創出など、政策的意義のある分野において民間資金の呼び水、補完としての役割を果たし、民間のリスクマネー供給を活発化させることが期待をされております。

これら官民ファンドは、法律に基づいて設置をされております。当該法律において設立の趣旨、目的のほか、政府出資の根拠規定、あるいは政府による監督の枠組みといったものが規定をされており、それぞれの設置根拠法に定められました所管官庁の下、政策目的の実現に向けた取組がなされているというふうに承知をしております。

〔委員長退席、理事大家敏志君着席〕

○安達澄君 ありがとうございます。

政策的意義という言葉がありましたけれども、もう大事なのはそこだと思います。麻生前財務大臣も、官民ファンドが議論されたこの財政金融委員会で、二

○一九年十一月七日のことですけれども、政策目的を実現していくことが極めて重要と答弁されていました。

さて、そこで実際に今、経産省の官民ファンド、クールジャパン機構はどんな状況か、簡単に説明したいと思います。

資料を用意しております。資料一を御覧ください。これ、官民ファンド、株式会社クールジャパン機構の投資事業内容についてであります。

①番のところの投資概況ですけれども、(一)、スタートして、一四年度から昨年度、二一年度までの投資実績、支援決定している金額が九百六十八億円。(二)、そして、今年度から最終年度までの二八年度までには、計画として更に約一千百億円をこれから投資していくことになっています。そして、二一年度までの累積損益はどうかというと、三百九億円の赤字ということで、赤字がどんどこんどこ積み重なっています。これは、計画に対してバツの五十二億円であります。

じゃ、どんなことやってんのというところが、これ②番ですけれども、百億円を超える大型案件、これ三つあるんですけど、一つはここにあるスパイバー株式会社、これ繊維、素材ですね、それを作って、それがルイ・ヴィトンの服になったりとか、そういうものであります。

その下の寧波、寧波阪急というのは、これ阪急百貨店を上海の下の寧波に造って、クールジャパン機構も出資してやっています。これ、元々政策的意義は、日

本ブランドを前面に出すと言っていたんですけど、蓋を開けてみると、ルイ・ヴィトンやら、カルティエやら、グッチやら、海外ブランドが多くを占めている。どこが政策的意義、合致するのかなと不思議なものでもあります。

今日はちょっと特にポイントを絞って、ラフ・アンド・ピース・マザー株式会社という、この③番のところ。ここには百億円の支援が決定しています。これは吉本興業と、大阪の漫才ですね、そこと一緒にやっているものであります。その政策的意義は何かというと、この黄色のところ、③番のところ、一つ、子供向けに日本発の良質な教育コンテンツを制作し、海外へ展開するというのが一つ、二つ目は日本ファンを獲得する、最後三つ目は、その結果インバウンドの促進というのが政策的意義であります。

では、この三つの政策的意義を踏まえ、どんな子供向け教育コンテンツを作っているかというのが資料二になります。

この場に出すのもちゅうちょしたんですけど、今から真面目な顔して説明するのも本当はちょっと恥ずかしいんですけど、ちょっと勇気を出して説明しますが、①番、子供向けですよ、けど場面設定がスナックですね。子供向けスナック来夢来人というのが出てくるんですけど、私は決してスナックを否定しているわけではなくて、これやっぱり日本の非常に大事な文化だと思います。ただし、子供向けです。②番は、そのスナックに小学生がランドセルしょって、ママただ

いまって帰ってくるんですね。そうすると、このママ、これゆりやんママという吉本の芸人さんですけど、お帰りということで、③番、今日のゲームということで、ゆりやんママと小学生と一緒にゲームをします。どんなゲームかという、日銀が発行しているあの千円札ですけど、それをぴらぴらぴらっとママがして、ぱっと手を離すんですけど、その下で小学生が指二本構えていて、ぴしっとキャッチできれば成功、すんと下に落とすと失敗。失敗するとどうなるかという、最後④番、ゆりやんママが水鉄砲を取り出して、小学生の顔にぷしゅっと水を掛けて罰ゲームというのがこれコンテンツの一つであります。

先ほど政策的意義とありましたけど、念のため言っておきますけれども、政策的意義と懸け離れたコンテンツがこの事業ではほかにもたくさん作られています。これほんの一例です。しかも、本来の目的である海外向けはまだスタートすらしていません。

財務省がお金を出す官民ファンド、このクールジャパン機構の中身を、これ一例ですけど、実際に御覧になってどんな感想をお持ちになりますか。

○政府参考人（齋藤通雄君） お答え申し上げます。

クールジャパン機構の個別案件についてでございますが、これは設置根拠法に基づき、所管官庁でございます経済産業省が、これ法律的には経済産業大臣が

という主語になっておりますけれども、政策目的の実現や収益性の確保といった支援基準を満たしているかどうかということを確認を行うこととなっております。

〔理事大家敏志君退席、委員長着席〕

このように、個別案件に関する評価あるいは判断というのは一義的には所管官庁に委ねられておりますので、財務省として個別案件にコメントをすることは差し控えさせていただきたいというふうに存じます。

ただ、クールジャパン機構が先生御指摘のとおり多額の累積損失を抱えているということにつきましては、私どもとしても懸念を抱いており、その点、先生の問題意識は共有させていただいているところでございます。

○安達澄君 この官民ファンドに関しては年二回、六月と十一月に財務省理財局が主宰をして、財政制度等審議会財政投融资分科会が行われています。

このクールジャパン機構は、特に累積損失が大きい事業として、本当にこのまま続けて大丈夫かという観点からでしょう、毎回分科会で議題として取り上げられています。ただし、これまでにに関して言うと、やっぱり組織の統廃合だとかその六本木ヒルズにあるオフィスをどうするとか、表面的な議論が中心だったように思います。

ただ、今年六月二十日に開催された分科会の議事録を読むと、今回は結構本質を突いた根本的な問いが、経産省はもちろん、財務省理財局にも投げかけられているなどと思っています。審査会委員の一人、土居丈朗慶応大学教授ですけれども、官民ファンドという仕組みでこのまま続けていいものかどうかということはもはや真剣に考えなければならない、そんな分岐点に来ているんじゃないかとの御指摘です。同じく審議会委員の、産業再生機構での実績で有名な富山和彦さんですけれども、今や官民ファンドという立て付け自体がちょっと無理があると、抜本というのであれば、そういう見直しをしているのかどうなのか、私の根本的質問ですと、同じく厳しい御指摘がありました。要は、このクールジャパン機構を国がやる必要あるの、やっている場合なのということだと思えます。

そこでお聞きします。このような本質的かつ直球の質問が投げかけられましたが、それを受けて、今月、十一月の審議会に向けて、そこでは抜本的な見直しが行われるものと期待をしていますけれども、今財務省は、経産省やクールジャパン機構に対して何かしていますか。

○政府参考人（齋藤通雄君） お答え申し上げます。

クールジャパン機構につきましては、累積損失の大きい官民ファンドということで、諮問会議で決定をされましたいわゆる改革工程表に基づき、累損の解消

のための投資計画というのをまず平成三十一年の四月に策定、公表いたしました。ただ、令和二年度末の累積損失が計画未達となりましたので、更に令和三年の五月に改善計画を策定、公表したところでございます。その後、この改善計画につきましても、令和三年度末の累積損失が計画未達ということになっておりますので、これを踏まえて、経済産業省及びクールジャパン機構において、現在、組織の在り方を含めた抜本的な見直しというものの内容を検討しているところと私どもも承知をいたしております。

先生御指摘のとおり、今月中に開催を予定しております財政制度等審議会の財政投融资分科会におきまして、経済産業省及びクールジャパン機構から検討結果というものを報告をしてもらい、議論をするという予定にいたしております。その議論を踏まえて、私ども財務省としても対応を検討してまいりたいというふうに考えております。

○安達澄君 是非しっかり対応していただきたいと思います。

私がこの官民ファンド、クールジャパン機構の中身や進め方を見ていて感じることは、もうこれでは経産省の官僚、職員の人たちがかわいそう過ぎるなということなんですね。自分は一体何やっているんだろう、こんなために経産省に入ったのかと、そう思いながら仕事をしていると思います。撤退するとかやめると



いう判断は、現場の担当者にはこれ絶対できません。おかしいと思っても口に出せないと思うんですよね。

なぜか。それは、やっぱり前任者を否定することになるし、そもそもこれを始めた人を否定することにもなるし、当時の局長をまた否定することにもなる。誰が責任取るんだと、多分そんな問題にもなるでしょう。そして、大体人事異動って二年、三年で行われると思うんですけど、これ、やめる、変えるとなると、これ大変な作業がまた発生するから、だったらもうこのままでいいじゃないかということで前例踏襲してしまっている部分もあると思います。これがもう人間の心理だと思うんですね。私もサラリーマン時代、やっぱり組織の一員として仕事をしていましたから、そういった状況はよく理解できます。

でも、国のお金です。公金です。これを変えることができるのは誰か、責任取れるのは誰か、それは私は、もう思うに大臣などのリーダーしかいない、政治家しかいないと思っています。やめろと一言言えば一気に物事は動くと思うんですね。なので、私は経産委員会の中で、当時の梶山大臣や萩生田大臣に対してこの官民ファンドからの撤退、見直しを求めたんですけど、その結果は先ほどのコンテンツ、あれが削除されただけで、私は、そこじゃないんですよね、言うことは、抜本的な見直しなんですよ。

そこで、所管するところのリーダーができないというのであれば、もうこれは

第三者の目や指摘しかもうないと思います。国民のお金を預かり、そしてお金を出す立場である財務省こそが、もちろん会計検査院もありますけれども、しっかりと指摘しないともう無理だと思います。同じ霞が関の仲間を救えるのは、そして本来国がやるべき仕事に向かわせることができるのは、お金を出す財務省がきちんと指摘をしてあげることだと思います。

今年六月の時点ですけど、例えば、クールジャパン機構とかクールジャパン政策全般の仕事を担当するクールジャパン政策課の職員数というのは、課長以下三十六名なんですね。経済安全保障の要、半導体政策を取り仕切る情報政策課はそれよりも少ない三十名なんですね。萩生田経産大臣は、半導体の次は蓄電池だと経産委員会で言っていたんですけど、じゃ、その蓄電池産業を所管する課や室の職員数は、経産省、もっと少ない十三名なんですよ。本当、その日本の経済産業政策って大丈夫かっていう話だと思うんですけど、今日、こうやって官民ファンド、クールジャパン機構の中身や事実を知ってしまった以上は、是非財務省にも抜本的な見直しに向けて頑張っていただきたいと思います。

最後に、鈴木大臣にお聞きします。繰り返しになりますけれども、先日の所信表明の中で、歳出の中身を精査、質の高い予算を作るとおっしゃっていましたが、短い時間ではありましたけれども、今日の議論をお聞きになって、もし感想があれば最後にお聞かせください。

○国務大臣（鈴木俊一君） 官民ファンド、様々あって、十三あるとお聞きしましたけれども、その中では、きちんと政策目的に沿って活動しているところもあれば、今日先生御指摘のような問題があるところもあるということだと思っております。全体としては、累積損益は令和三年度末時点で合計で五千九百八十九億円の黒字になっておりますが、御指摘のところは赤字になっているということで、政策目的が果たされていないんだということなんだと思います。

いずれにいたしましても、官民ファンド、これは政府の成長戦略の実現や地域活性化への貢献及び新たな産業、市場の創出など、政策的に意義のある分野において民間資金の呼び水、補完として民間のリスクマネー供給を活発化させること、それを目的として設立されたものと聞いてございます。このような目的を有する官民ファンドは、先ほど御紹介ございましたけれども、麻生前大臣が答弁したとおり、政策目的を実現していくことが極めて重要であるということであって、私もまさにそのように思います。

まずは所管官庁における監督、これをしっかりやっていただいて、官民ファンドがこのような政策目的に沿って運用されているのかどうか、そういうことをしっかりとチェックし、把握することが重要であると、私はそういうふうに認識をいたしました。

出資者であります財務省といたしましても、各官民ファンド及び所管官庁による改革の取組の進捗状況、これを把握をいたしまして、その状況に応じた必要な対応、これを促してまいりたいと、そのように考えます。

○安達澄君 中身をしっかり見ないと議論は深まらないと思いますので、是非よろしく願います。

終わります。ありがとうございました。